



トピックス

妊娠中に服用した薬はだいじょうぶ？ ー新生児薬物離脱症候群ー



近年、うつ病をはじめとした精神的な問題を持つ人の数は増加傾向にあり、妊婦さんにおいても同様です。また妊娠後期から産後にある女性は精神的に不安定になりやすく、症状が悪化したり再発しやすいことが知られています(悪化・再発率 統合失調症:59%、双極性障害:71%、うつ病:43%)。精神的な病気を持った女性が妊娠を安全に継続するためには、治療薬を正しく服用し精神状態を安定させておく必要があります。一方、妊婦さんへ投与された薬の多くは胎盤を介して胎児へ移行するため、生まれてきた赤ちゃんにも一時的ではありますが母親が服用した薬の影響が残ります。

新生児薬物離脱症候群は、胎盤を経て胎児に移行していた薬剤が出生により中断され、赤ちゃんの体から抜けていく過程で赤ちゃんに起こる様々な症状を来すことをいいます。具体的な薬剤としては抗てんかん薬、抗精神病薬、抗不安薬、抗うつ薬、睡眠薬などで生じ、赤ちゃんに以下の症状が現れることがあります。

- ① 出生後、まず薬効により傾眠、無呼吸など薬物の直接症状を呈します。
- ② いったん正常に見える時期を経て、出生 8～48 時間後に離脱症状として振戦、易刺激症状、不安興奮状態など生じます。

①または②のどちらかの症状を来す場合もありますが、①、②の両方を来す赤ちゃんもいます。診断、治療をする場合は下記の表での症状を点数化して新生児薬物離脱症候群の診断や治療を行います。

通常は 2～4 週間で治療は終了し、妊娠中に投与された薬による長期的な障害を残すことはありません。

このように母親が薬を服用していても、子宮の中にいる時は呼吸をしていないので問題はありますが、生まれてきて自分で呼吸を始めた時に何らかの影響をもたらすことがあります。しかし、母親が必要な薬物治療を中止することはあってはいけません。赤ちゃんにとっても、母親が心身ともに良好な状態であることは極めて重要です。自分を責めてしまうこともあるかもしれませんが、良好な養育環境を確保し、健全な母子相互作用の確立を促すためにも、母親の薬物治療を安易に中断すべきではありません。

我々周産期にかかわる医療者は胎児期から出生後にわたって母親が使用している薬の赤ちゃんに対するリスクを正確に把握し、赤ちゃんに起こりうる薬物離脱症候群などにあらかじめ備えられるよう、管理や支援を行っています。母子ともに健やかに暮らしていけるようにサポートしますので、安心してご出産していただけたら幸いです。

新生児科 部長 太田 直樹



マタニティレシゼ



生のとうもろこしは甘味があり、芯を一緒に加えて炊くことでさらに甘味が出ます。
この時期はめん類ばかりになりがちですが、とうもろこしご飯は冷めても食べやすいのでおすすめです。



材料【作りやすい分量：2 合分（4～5 人前）】

- ・米 2 合
- ・とうもろこし 1 本分
- ・塩 小さじ 2/3
- ・無塩バター 10g
- ・小ねぎ 少量



作り方

- ① 分量の米を研ぎ、炊飯釜のメモリまで水を入れ、30 分～1 時間浸水します。
- ② 生のとうもろこしは皮をむき、根元を切り落とし、3～4 等分に切ります。
- ③ とうもろこしの粒を包丁でそぎます。
- ④ 浸水した米に塩を加えて混ぜ、その上に③のとうもろこしの芯と粒をのせて、通常モードで炊きます。
- ⑤ 炊き上がったら芯を取り除き、バターを加え混ぜ、茶碗によそって小ねぎをのせて完成です。



【レシピ提供】栄養管理部



センター稼働状況



分娩数	40 件	緊急帝王切開	6 件
母体搬送	6 件	NICU 稼働率	75.0%
新生児搬送	1 件	MFICU 稼働率	97.8%

(令和 6 年 6 月)

『水あそび 楽しいね♪』



編集後記



暑中お見舞い申し上げます
7 月に入り、猛暑が続いています。皆さん、夏バテされていませんか？今号は今が旬のとうもろこしを使った「とうもろこしごはん」を紹介しました。夏野菜は栄養満点！しっかり食べて本格的な夏を乗り切りたいですね。皆さま、どうぞご自愛くださいませ。
(母子保健室)



周産期センター
キャラクター
マミー&メイ